

情報通信研究機構

NICT 先端研究

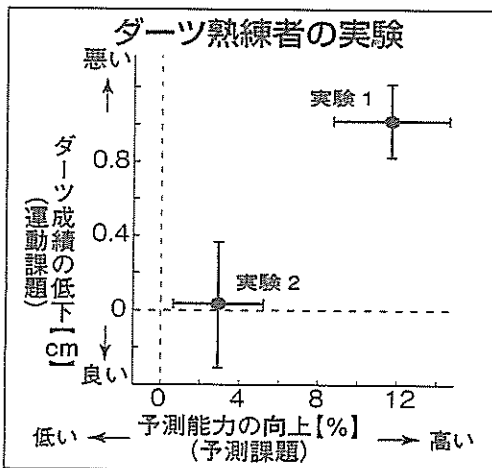
Cinet

⑫

脳情報通信融合研究センター（Cinet）では、自分と同じ動作を予測する能力が学習によって変化した場合、自分の動作の実行（ターゲット）が見えないようになると、素人の動作の結果を正確に予測できなくなるようになった。予測通り、この予測能力の向上に伴い、熟練者自身の動作課題を行った（実験）

すると以下の現象が生じることが予想された。熟練者は実験者から与えられた素人の動作の結果に関するフィードバック情報を利用すること、素人の動作の結果を正確に予測できなくなった。予測通り、この予測能力の向上に伴い、熟練者自身の動作課題を行った（実験）

すると以下の現象が生じることが予想された。熟練者は実験者から与えられた素人の動作の結果に関するフィードバック情報を利用すること、素人の動作の結果を正確に予測できなくなった。予測通り、この予測能力の向上に伴い、熟練者自身の動作課題を行った（実験）



相手動作予測 自分に影響

人間は、大規模な社会生活を営むことで現在の繁栄がもたらされた。社会の中で生きてゆくためには、自己と他者との間に起こるさまざまな出来事を判断し、適切なコミュニケーションをとることが必要になる。

他人の動作を見てその結果を予測すること、社会生活における行為選択や、他者とのコミュニケーションに不可欠だ。しかし、脳が他者の動作を予測する仕組みについて、よく分かっている。これまでの「他者の

脳情報通信融合研究センター研究員 池上剛
東大大学院修了後（教育学博士）、国際電気通信基礎技術研究所研究員を経て、13年より現職。ヒトの運動制御・学習メカニズムに関する研究に従事する。



化した。興味深いことに、熟練者のダーツ成績が低下したのだ。素人の動作の結果に関するフィードバック情報を与えずに同様の実験を行うと（実験2）、実験1と同じビデオを見たにもかかわらず、熟練者の予測能力は向上せず、ダーツ成績も低下しなかった。Cinetは、他者の動作の予測能力と自分の動作の実行能力の間の因果関係を示すことにより、二つの能力には共通した脳

科学技術・大学

TYPE OF INDUSTRY

